

2つの肺炎球菌ワクチン（成人用）

— 特徴とその使い方 —



2016年8月

国立病院機構宇都宮病院

呼吸器内科・薬剤部

- 肺炎は日本人の死因の第3位を占めます。
- 肺炎の死亡者の95%以上が65歳以上の高齢者です。
- 肺炎の原因菌の中で最も頻度が高いのが肺炎球菌です。

肺炎球菌ワクチンを接種することで、肺炎球菌による肺炎の発症を予防し、重症度を抑制することが期待できます（日本呼吸器学会）。

- 1 日本では65歳以上の高齢者に使用できる肺炎球菌ワクチン（商品名）として、
 - (1) 「ニューモバックス」
 - (2) 「プレベナー13」この2種類があります（2016年8月現在）。



- 2 肺炎球菌ワクチンの接種方法について、米国では上記2種類の接種を推奨しており、日本では「ニューモバックス」が2014年から定期接種化されるとともに（「プレベナー13」は任意接種）、すべての成人に2種類のワクチンを接種する方法が提示されました（日本呼吸器学会と日本感染症学会の合同委員会）。
- 3 肺炎球菌ワクチンの接種方法の概要は、下記の通りです。
 - (A) 「ニューモバックス」既接種者 ⇒ （1年以上空けて）「プレベナー13」を接種
 - (B) 「ニューモバックス」未接種者 ⇒ 「プレベナー13」を接種後、6ヶ月～4年以内に「ニューモバックス」を接種
 - (C) 2つのワクチンの連続接種は海外のデータに基づいており、見直しの予定あり
- 4 2つの肺炎球菌ワクチンを併用することで、より高い肺炎予防効果が得られます。

2つの肺炎球菌ワクチン（成人用）の比較

名称 (略称)	多糖体ワクチン (PPSV23)	結合型ワクチン (PCV13)
商品名	ニューモバックス	プレベナー13
血清型抗原の 種類	23価 23種類の肺炎球菌の血清型 抗原を含む。 肺炎を起こしやすい肺炎球菌 の約80%をカバーする。	13価 13種類の肺炎球菌の血清型 抗原を含む。 肺炎を起こしやすい肺炎球菌 の約60~70%をカバーする。
接種の種類	定期接種・任意接種 (公費助成あり) 一部の疾患に保険適応あり	任意接種 (公費助成なし)
接種の実際	定期接種は65歳から5歳刻み の人が対象（自己負担は 2500円~4000円前後）	自己負担は10000円~ 12000円前後（保険外）
特徴	カバーできる範囲が広い	免疫誘導能力が高い
再接種	5年ごとに接種可	不要

【参考】

- 1 ストップ！肺炎（日本呼吸器学会）
- 2 肺炎球菌感染症（高齢者）（厚生労働省）
- 3 65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方（日本感染症学会）
- 4 高齢者の肺炎球菌ワクチン接種について（島根大学医学部呼吸器・化学療法内科）

